

# 第3号 稲作管理特報

令和6年4月30日  
朝 日 町  
黒東地域農業技術者協議会

70株植えと浅水管理で初期分けつを確保し、「穂数型稲」への誘導を!

育苗管理は換気を徹底し、活力の高い苗に仕上げましょう。

品質の高い「みな穂産米」生産のため、5月10日以降の田植えと適正な植付本数・植付深さ、70株植えと浅水管理で、初期分けつの発生を促しましょう。

## 1. 4月下旬以降の育苗管理 ～ハウス内温度25℃以下を目標に換気を徹底～

- 曇りでも日射があればハウス内温度は上昇するため、昼間は換気を徹底しましょう。
- 緑化期以降は1日1回早朝にかん水し、晴天日や風が吹く日は、日中でも培土の乾きに応じてかん水しましょう。
- 田植え1週間前頃を目安に、夜間もハウスを開け、外気に慣らしてください。ただし、気温が5℃以下になると予想される場合は閉めましょう。
- 「ばか苗」は必ず抜取り、抜き取った苗は放置せずに埋設しましょう。

## 2. 代かき ～浅水で稲わらを埋没させ、ほ場の均平に努める～

- 代かきから田植えまでの日数が長いと雑草の生育が進むので、代かきは田植えの2～4日前に行いましょう。
- 一発肥料の被覆殻の流出防止に、代かき後の濁り水は、ほ場外に流さないでください。また畦畔沿いに吹き寄せられた浮遊物は除去しましょう。

## 3. 基肥 ～適正な基肥量を施用する～

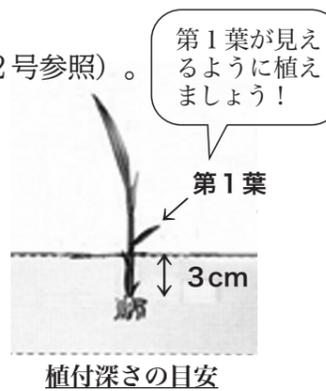
品種	施肥体系	肥料名	施用量 (kg/10a)
コシヒカリ	一発肥料	Jコートコシヒカリ1号または2号	38 (側条)
	分施	基肥206	30 (側条)

※春に牛・豚ふんを1～2t/10a、鶏ふんを100kg/10a以上散布したほ場は、基肥の施用量を1～2割減肥しましょう。

- 田植前には施肥量調節ダイヤル値を確認し、一定距離を走って落下量を確認してからご使用ください。また、ほ場毎に肥料の施用量を確認しましょう。

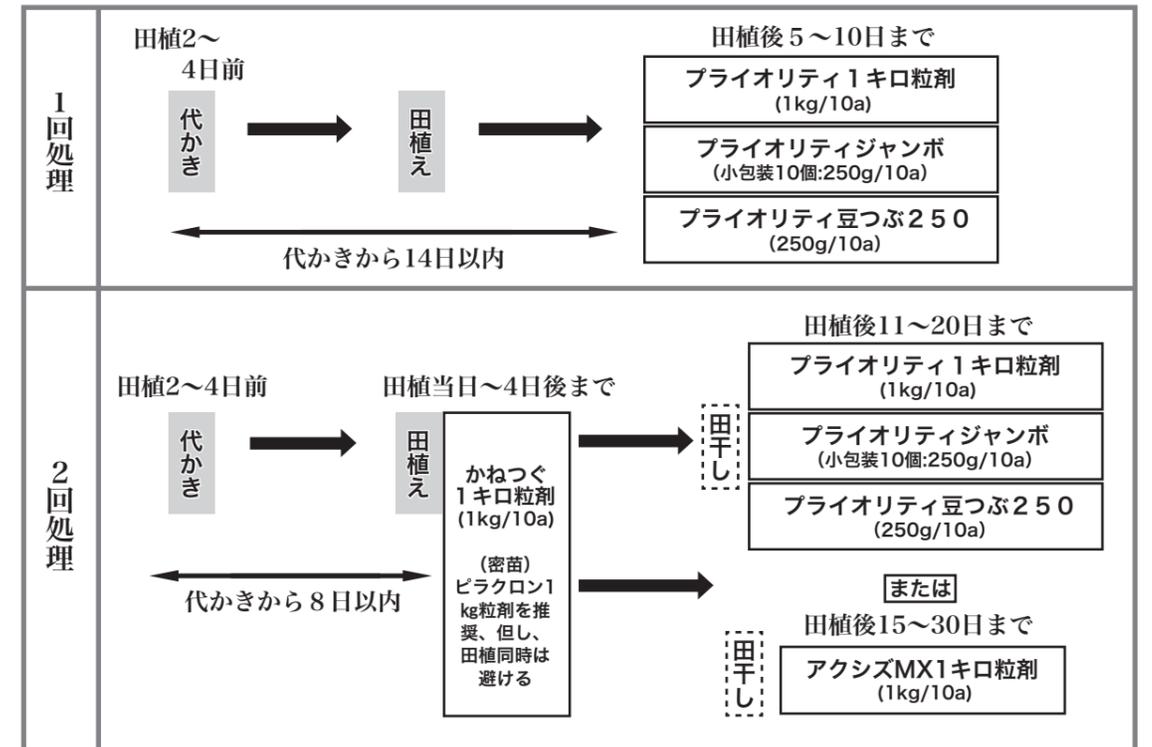
## 4. 田植え ～適正な植付けと水管理で、分けつの確保に努める～

- 植付株数は70株/坪、植付深さは3cm、植付本数は3～4本/株となるよう田植機を調整し、初期分けつの確保に努めましょう。
- 病虫害発生防止のため、苗箱施薬剤を散布しましょう(稲作管理特報2号参照)。除草剤と間違えないよう、散布前に必ず確認しましょう。また、密苗は苗箱数に応じて、10a当たり投下量が1kgになるようにしましょう。
- 田植え後3日程度は、苗が水没しない程度のやや深水にして、植え傷みを防ぎましょう。また、低温や強風時もやや深水にして、苗を保護しましょう。
- 活着後は、朝または夕方に入水、日中は止め水とし、2～3cm程度の浅水管理で初期分けつの発生を促しましょう。



## 5. 除草剤の散布 ～使用方法を厳守し、適期に散布する～

- 散布前に5cm程度入水し、5日間は湛水状態を保ち、水持ちの悪いほ場は、ゆっくりと入水し田面の露出を避けてください。散布後7日間は落水をしないでください。
- 2回処理の場合、除草剤散布直前に軽い田干しを1～2日程度行うことで、藻への効果を高めるとともに、有害なガスの発生を抑制してください。



### <かねつぐ1キロ粒剤を田植え同時処理する場合の注意点>

- ①漏水の多いほ場では使用しないでください。
- ②軟弱苗の場合、田植え同時処理を控えてください。
- ③極端な浅植えや深植えにしないでください。
- ④田植え後は、直ちに入水してください。

農薬は使用基準を正しく守り、使用後は栽培記録簿に必ず記載しましょう。

## 春の農作業安全運動 (令和6年3月～5月)

★JAみな穂営農情報メールを配信しています。

主な情報  
提供内容

- ・ 水稻・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
- ・ 気象情報と災害防止の対策

右のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

